

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

S24310
S16009
S16008

③施設名等

名称：	こどもの里
施設長氏名：	飯田 三年
定員：	38名
所在地(都道府県)：	茨城県
所在地(市町村以下)：	茨城県水戸市成沢町904-6
T E L：	029-222-9105
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	平成20年4月
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 小川会
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	2名
専門職員の名称(ア)	社会福祉士
上記専門職員の人数：	3名
専門職員の名称(イ)	保育士
上記専門職員の人数：	9名
専門職員の名称(ウ)	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(エ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	幼児室：3 1人部屋：24、2人部屋：2、3人部屋：1
施設設備の概要(イ)設備等：	
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意志を尊重しながら将来自立できるようにきめの細かい支援を行います。 ・地域の皆さんに支えられる施設を目指します。 ・早期の家庭復帰に努めます。そのためにも、児童相談所など関係機関との日常的な連携を深めます。
--

⑤施設の特徴的な取組

--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2016/11/15□
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2017/12/7
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

施設の基本理念に「子どもの意思を尊重しながら、将来自立できるようにきめ細かな支援を行います。」を掲げ、職員も理念を理解し、理念に沿って「子どもの話をしっかり聴く」とともに、子どもが「自分は大切にされている」といった実感を持つことで「人を大切にできる心」「思いやる心」を育むことができるよう、子どもとの密接な関係づくりや支援をしている。また、学校生活や日常生活を通して、基本的な生活習慣の確立とともに、高校卒業後の進学や就職等のための学力向上、親子関係の修復や社会生活への復帰のための支援をしている。特に基本的な生活の中で、余暇活動や小遣いの用途を子どもの自主性を尊重するとともに、食生活や衣生活は子どもの気持ちに配慮しつつ、自立や家庭復帰した際に役立つ支援をしている。

◇改善を求められる点

養育・支援の標準的な実施方法を作成することで、養育・支援をする職員誰もが必ず行わなくてはならない基本となる部分を共有化し、養育支援の水準や内容を保つとともに、子ども一人ひとりの個別性に着目した支援することを期待する。また、養育・支援内容の変化や新たな知識・技術等の導入を踏まえ、標準的な実施方法やマニュアルを見直す仕組みづくりとともに、スーパービジョン体制を確立することで、養育・支援が更に向上することを期待する。

施設長による面接や新任職員に指導的職員を付けアドバイスを行っているが、人事考課等を取り入れるには至っていないので、定期的に職員相互を評価する機会を設け、お互いに助言しあいながら職員一人ひとりの支援の向上につながる取り組みを期待する。

子どもが家族の状況を含め、自己の生い立ちを知ることは大事なことであり、子どもの知りたいという申出があった場合は、その気持ちを尊重しつつ、年齢や発達段階を配慮し伝える方法として、組織としての対応の仕方についてマニュアルを作り、職員の周知を図っていくことを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度の第三者評価を受審し、職員一人ひとりが「自己評価」に対する振り返りや再確認ができました、これからも「児童の最善の利益」等を最優先にして、支援に結び付けていきたいと思っています。

また、人事考課制度の導入など、職員の質の向上に向けた体制確立など“改善が求められる点、についても、真摯に受け止め改善強化してまいります。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>施設の基本理念や基本方針は明文化され、パンフレット、ホームページ、事業計画書に明示している。理念は「子どもの意思を尊重しながら将来の自立を支援する」、「地域の皆さんに支えられる施設をめざす」、「児童相談所など関係機関と連携を取り早期の家庭復帰に努める」を掲げるとともに、施設運営の基本方針を定め、その下に6項目になる具体的な重点事項を定めている。年度当初の職員会議で事業計画を配布し、施設の基本理念、施設運営の基本方針、児童自立支援の基本方針、支援目標等について職員に周知している。利用者、保護者には入所時に「子どもの里 養育方針 説明書」を使って、施設の目的や運営方針、行事や日課等を分かりやすく説明している。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>国の方針に沿って地域小規模施設開設の準備を行っている。入所児童の減少による現状を踏まえた定員の調整を行政と連携して行っている。会計事務所から会計状況の確認を行うとともに、経営状況に関するアドバイスを受けている。水戸市が主催する要保護児童対策協議会に出席し、養育・支援を必要とする子どもに関する情報の把握や地域の課題を話合っている。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

家庭的養護推進計画に基づく小規模化の取り組み、将来のグループケア化に伴う本体建て替えや大規模改修に向けた準備のために、諸経費の縮減に努めることを長期的な課題として施設運営の基本方針に掲げている。また、里親専門員や家庭支援相談員の複数配置、2ヶ所めの小規模施設の立ち上げを課題としている。入所児童数の減少による定数の削減や家庭的養護推進計画による小規模化への取組み等の経営課題について、理事会で協議するとともに、職員にも周知し共有している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

児童養護施設の小規模化に対応する、こどもの里家庭的養護推進計画を作成し、平成27年度から平成41年度まで15年間の中・長期的な計画が作成されている。平成29年4月の地域小規模施設開設に向け、小規模化検討委員会を設置し、他施設の見学等を含め移行の準備を進めている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

施設運営の基本方針として中・長期計画を反映した、平成29年4月の地域小規模施設の設置や家庭的養護推進計画に基づく小規模化に向けての準備等を事業計画に明記している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

事業計画は運営委員会で検討し作成するとともに、年度当初の全職員が参加する職員会議等で説明している。事業計画作成にあたり、職員参画のもとに取組み状況の確認や評価を実施し、成果や課題を明確にして次年度に反映させることを期待する。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

こどもの里だよりの発行や、子ども会開催時に年間行事等を周知しているが、事業計画を配布等は行っていない。事業計画の必要な箇所は子どもや保護者に分かりやすく説明することを期待する。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

全国養護施設協議会の施設チェックリストを毎年実施することで子どもの養育・支援の質の向上や安心して安全に過ごせる生活環境に努めている。自立支援計画作成の委員会で自立支援計画の策定が行われ、毎月実施するケース検討会で自立支援計画の評価、見直しを行っている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

前回の第三者評価の受審結果を職員へ周知し、事業計画の中に課題改善について明記しているが、改善計画を立てるまでには至っていない。改善に向けた優先順位をつける等の改善計画を作成することを期待する。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

職務分掌に施設長の職務責任を明示し、運営会議や職員会議に自らの考えを話すとともに、こどもの里だよりに定員減や「子どもの里家庭的養護推進計画」や施設の状況を報告している。職務分掌が現状に沿ったものとなっていないので、現状に合わせた職務分掌に見直しすることを期待する。職員の個別面接を実施し、職員の就業状況や意向の把握に努めている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

施設長は児童関係施設長の会議や施設長を対象とした研修等に出席し、遵守すべき法令等の理解に努めるとともに、経営に役立っている。県の児童関係施設長会の研修委員として活動するとともに、法人改革に向けた研修や検討、虐待防止の外部研修に職員を派遣している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	<p>12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

施設長は各種の会議や委員会を設置し、子どもの養育・支援の質の向上に向けた体制を構築するとともに、会議に出席し、子どもの適切な支援に関する意見を発言している。また、職員の質の向上に意欲を持ち、職員を各種研修に派遣するなど、研修体制の充実に努めているが、体系的に行うまでには至っていない。

②	<p>13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	b
---	--	---

【コメント】

施設運営の基本方針実現に向け、「サービスの質の向上」、「職員の資質向上」、「快適な施設環境の実現」等の具体的な重点事項を6項目掲げ、取り組んでいる。会計事務所から会計状況の確認や、経営状況に関するアドバイスを受け、経営の改善や法人改革等について検討している。職員の勤怠状況や経営状況等を把握するとともに、勤務表作成時の配慮や電力会社を変更するなど節約に努めている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/>計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	b
---	--	---

【コメント】

新規採用職員は養成校から、その他に福祉人材バンクやハローワークから、養育や支援に必要な人材を採用している。養育や支援が必要な子どもの状況が多様化していることから、人材育成に関する方針を明文化するとともに、計画的な人材の育成が望まれる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができてい	
	る。	

【コメント】

人事考課は実施していないが、昇進、昇格に関する基準を定めるとともに、職員に周知している。施設長による面接を年1回行っており、要望や次年度の就業に関する意向、日頃感じていることなどを聴いている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

施設長は、職員が心身ともに健康で楽しく仕事ができるよう、職員の勤務シフトや有給休暇の取得状況等の労務管理に努めている。施設長は、職員アンケートを実施し意見を求めるとともに、年1回職員と面接を行い、就業の意向を把握している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

新採職員に対しては、個々にサポート職員を配置してOJTを実施している。職員の外部研修は職員を順番に参加させているが、職員一人ひとりの教育・研修計画は策定していない。職員一人ひとりが自ら目標設定を行い、設定した目標について目標達成度の確認を行うような目標管理制度の仕組み作りを提案する。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

職員が茨児協、県主催の研修に参加した場合は、全員出勤日に伝達研修を行う等、情報を共有している。また、職員研修担当者を配置し、月1回内部研修の企画を行い、実施している。職員の経験や習熟度に応じた職員一人ひとりの研修計画を策定していないので、既に受講した研修等を把握するとともに、教育・研修計画の策定し、実施されることを期待する。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	

【コメント】

職員の資格取得状況を把握するとともに、資格取得を目指す職員に有給休暇制度を設けている。新採職員に対しては、個々にサポート職員を配置してOJTを実施している。外部研修には公平に職員が研修を受講できるよう配慮しているが、職員一人ひとりについて研修計画を作成していないので、職員一人ひとりの研修計画の作成を期待する。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

実習生担当職員を決め、事前のオリエンテーションでは実習での子ども達への接し方等について説明している。宿泊希望の実習生には宿泊施設を提供し、宿泊での実習を受け入れている。相談援助実習の実習指導について、担当者が養成研修に参加している。実習生を受け入れるに当たり、研修や育成に関する基本姿勢等を明示していないので、基本姿勢を明文化することを期待する。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	<p>21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	b
【コメント】		
ホームページに事業所の理念や養育方針、自立支援方針などを明示するとともに、現況報告、監査報告、財務諸表、事業報告を公開している。広報誌「子どもの里だより」を学校、自治実践会、行政機関、養成所等に送付している。第三者委員の設置や玄関にポスター等を掲示し周知を図るなど、苦情に関する体制整備を行っており、相談等の内容に配慮して理事会等に報告している。		
②	<p>22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	b
【コメント】		
会計事務所が定期的に来所し、経理状況の確認や経営に関するアドバイスを受けている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	<p>23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	b
【コメント】		
施設の基本理念に「地域の皆さんに支えられる施設を目指します」と謳い、職員が地域の子ども会の役員を引き受けたり、地域の飯富まつりに子どもたちが参加する等、地域との交流を盛んに行っている。子どもの里まつりには模擬店、カラオケ、抽選会を行い地域住民が参加し、交流している。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	

【コメント】

ボランティアを受入れるにあたり、申請様式を作成するとともに、身元の確認と個人情報の守秘義務等の書類を事前提出しているが、受入れに関する基本姿勢やマニュアルを作成していない。定期的にピアノの先生が来園し、子ども達に指導するほか、散髪や学習支援の有償ボランティアを受け入れている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所、学校、医療機関、市役所、自治会等の必要とする社会資源、関係機関の連絡網を作成し、職員間で共有している。学校とは送迎時や授業参観、個別面談等で日常的に情報交換を行っている。児童相談所とは定期的な施設訪問も有り情報の共有を図っている。水戸市主催の要保護児童対策協議会に主任が出席して地域の課題等を話し合っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	

【コメント】

職員が地域の子どもの会の役員を引き受け、かるた取り等の子ども会活動に子ども達と一緒に参加している。施設が有する機能を生かした地域貢献活動を行うまでには至っていないので、施設のスペースの開放や研修会の企画等に取り組むことを期待する。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

施設のスペースを利用した研修会等を開催していないが、地域の民生委員・児童委員の視察を受け入れ、地域福祉ニーズの把握に努めている。地域の代表者が施設の役員となっているので、会議時に地域の情報を聞いているが、具体的な活動は今後の課題となっている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【コメント】

施設の基本理念、基本方針に「子どもの目線に立ち、子どもの意思を尊重して自立を促す」明示し、子どもの尊重や基本的人権に関する内部研修を開催し周知を図るとともに、職員が子ども一人ひとりの気持ちにそった支援を行っている。職員はまずは子どもの意見を良く聞いて、子どもを尊重する姿勢を子どもに見せることから信頼関係を築いている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	

【コメント】

就業規則で個人情報の取扱い等を規定するとともに、子どもの虐待防止や権利擁護について、マニュアルを整備している。洋服等の私物の記名等は、小学校低学年までは下着等に目立たないように名前を記名するなどの配慮している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

入所予定の子どもや保護者に対して「こどもの里 養育方針 説明書」を使って施設の運営方針や日課、生活に関する資料を用意して説明するなど、利用に必要な情報を提供している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

支援の開始にあたり、担当者を決めており、担当者が「こどもの里 養育方針 説明書」を使って子どもや保護者に施設の生活についてわかりやすく説明している。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

地域、家庭への移行は、児童相談所と連携を取りながら取り組んでいる。移行時は、家庭支援専門相談員が担当となって、退所者からの相談にのっている。他の施設への移行は、ケース記録の写しや金品に関する書類の引継ぎを行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

毎月子ども会を開催し、子どもの意見や要望を聴いている。遠足の要望やイベントの企画などは、年齢に応じた企画等を子どもたちが行っている。行事前にはアンケートを実施し、子どもの意見や要望を聞くとともに、職員からは注意事項を伝えている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決の仕組みは、解決責任者や受付担当者の配置、第三者委員を依頼、苦情解決マニュアルの作成などにより、体制を整備している。子ども達には、支援開始時や子ども会等で苦情解決について説明するとともに、パンフレット等にも掲載し周知している。受付けた苦情は、記録や検討を行っているが、公表するには至っていないので、内容によって公表の仕方について今後検討することを期待する。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

子どもからの相談や意見がある場合は、相談室で話を聴いている。相談相手は担当職員に限らず、どの職員にでも相談できることを子どもに伝えている。意見箱を設置し、自由に意見が言えるよう環境整備を行うとともに、箱に入っていた意見はすぐに検討している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

毎月の子ども会開催時や意見箱を設置するなどにより、子ども達の意見や要望を聞いている。子どもからの意見は主任指導員、施設長に伝えられ対応を検討している。意見等への対応は、子どもの状況に応じて、本人の意見を聞きながら対応している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

事故対応、不審者、食中毒、無断外出、虐待防止、非常災害、各種トラブルのマニュアルを整備している。ヒヤリハット事例を収集し、隔月に生活支援委員会を開催して事例検討を行い、発生要因の分析を行っている。危険な箇所や子どもの状態に応じて、職員で情報共有を行い、子ども達が安心して安全に生活できる支援を行っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	

【コメント】

生活支援委員会を中心に感染症に対する標準的な手法を記したマニュアルを作成するとともに、感染症発生時の緊急連絡網を備えている。感染症に関する職員への周知、理解が十分ではないので、感染症発生時の対応に関する研修の機会を設けるとともに、とっさの場合に対応できるような実践の取り組みを期待する。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	

【コメント】

生活支援委員会で防災計画を立て、防災マニュアルの作成や毎月1回避難訓練を実施し、年2回の総合訓練時の1回は消防署の立会いで訓練を実施している。備蓄品は食料品やプロパンガス、ガスコンロ、懐中電灯等を備蓄している。備蓄品のリストを作成し、食料品等は賞味期間を管理するとともに、3日分の献立を作成している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

養育・支援の標準的な実施方法を作成することで、養育・支援をする職員誰もが必ず行わなくてはならない基本となる部分を共有化し、養育支援の水準や内容を保つとともに、子ども一人ひとりの個別性に着目した支援することを期待する。また、養育・支援内容の変化や新たな知識・技術等の導入を踏まえ、標準的な実施方法やマニュアルを見直す仕組みづくりとともに、スーパービジョン体制を確立することで、養育・支援が更に向上することを期待する。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

養育・支援に関する標準的な実施方法を文書化するとともに、子どもが必要とする養育・支援内容の変化や新たな知識・技術等の導入を踏まえ、定期的に見直しをする仕組みの確立を期待する。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	

【コメント】

自立支援計画書策定にあたり、日常的な観察、面談を通じて児童の意向の把握に努め、子どもの担当者が自立支援計画を作成し、施設長や主任指導員、各部門の担当主任、担当者等で構成する自立支援委員会で検討している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援委員会で自立支援計画を検討するとともに、月1回のケース検討会を行い、6ヶ月に1回計画書の見直しを行っている。また、子どもの行動に大きな変化等が見られた時は必要に応じた見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	<p>44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

パソコンによるネットワークシステムを利用して、自立支援計画に基づき養育・支援の記録を適切に記録するとともに、子どもの個人ファイルに綴り、職員間で共有している。養育・支援に関する記録をパソコン入力やネットワーク化することにより、事務作業の軽減や情報の共有、記録内容の統一を図っている。

②	<p>45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>記録管理の責任者が設置されている。</p> <p><input type="checkbox"/>記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。</p>	b
---	--	---

【コメント】

ケース記録の管理については個人情報の取扱いを定めるとともに、職員室の鍵の掛かるロッカーで管理している。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	<p>A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/>職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/>受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	b
【コメント】		
職員の間で共通理解として子どもの最善の利益を目指した養育・支援に取り組んでいる。新人職員には、専門的なスキルを向上させるための教育が大切と考え、ベテラン職員がスーパーバイズしながら子ども達の支援に取り組んでいる。振り返りは、幼児部、小学部、中高部ごとの担当が行い、議事録に残している。		

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	

【コメント】

今のところ自身の出生や生い立ちを知りたいと言った申し出は見られないが、子どもに家族の状況を含め、自己の生い立ちについて適切に知らせようとしている。伝え方や内容について、職員間で統一を図るには至っていないので、子どもから生い立ちを知りたいという申し出があった場合の対応の仕方や手順等についてマニュアルを作るとともに、職員に周知を図ることを期待する。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかげがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	

【コメント】

入所時に児童相談所から「権利ノート」が子ども達に配られ、説明を受けている。子どもに大切な自分を守るための知識とスキルを伝えるため、予防教育プログラムの受講を予定している。中・高生には、職員との話し合いの際に説明している。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	

【コメント】

子ども同士で喧嘩している時は、適切に職員が介入していくようにしている。日々の生活の中で起きる些細な事柄についても、子どもを尊重し見守る姿勢で支援することを職員で共有している。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	<p>A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。</p>	a
---	---	---

【コメント】

児童養護等関係施設で取り組む、虐待根絶のための研修会に職員を積極的に受講させている。就業規則に体罰禁止等に関する事項を明示するとともに、虐待防止委員会を隔月毎に実施し、施設内虐待について検討を行っている。

②	<p>A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつくられている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。</p>	b
---	--	---

【コメント】

不適切な係わりに関する対応マニュアルを整備している。虐待防止委員会による、ヒヤリハットの作成や確認及び意見箱の設置や確認を行うとともに、検討している。

③	<p>A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

児童虐待対応マニュアルが整備され、届け出や通告があった場合の対応等を明示するとともに、子どもの権利を擁護する方針を職員全員に周知している。虐待防止委員会の設置や第三者委員の設置及び掲示による周知を図っている。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	

【コメント】

子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。特定の思想や信教を持つ子どもはいないが、今後現れた場合は権利を損なわない対応をすることとしている。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	

【コメント】

子どもの状況や状態について児童相談所と連携を取って把握するとともに、温かく受け入れる準備をしている。子どもが安心して落ち着いた生活ができる環境を提供するとともに、新しい生活に慣れるよう担当職員を中心に寄り添った支援をしている。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	

【コメント】

パソコンやゲーム機の使い方等施設内のルールは、子ども会で意見を聞いて決めるなど、子どもが主体的に考え、自主性に任せた生活が送れるよう支援している。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	

【コメント】

携帯電話の使用や支払は子どもの年齢に応じて対応するとともに、パソコンやゲーム機等の使用は、子ども会で意見を聞いて最低限のルールを決め、それを守れば自主性に任せて使用することができるなど、子どもが主体的に考えて生活できるよう支援している。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	

【コメント】

小遣いは年齢に応じ支給しており、用途は子どもの自主性を尊重し、自由に使えるよう配慮するとともに、収支状況は小遣い帳により管理している。年齢に応じて、お小遣いで買い物をしたり、アルバイト代を貯金するなどにより、金銭感覚等が身につくよう支援している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活が送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

【コメント】

家庭支援相談員を中心に子どもが家庭復帰後に安定した生活が送れるよう、環境整備に取り組むとともに、課題がある場合は個別に対応している。児童相談所、学校、市町村の関係機関と連携して退所後の支援に当たっている。親子室等を活用して、保護者と子どもが生活できる環境設定に取り組んでいる。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

措置延長に関する取り組みは現在行っていないが、子ども一人ひとりに適した進路（高校受験）となるよう相談や対応している。措置の延長は、本人の希望や子どもの状況、ニーズに合わせて支援している。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

子どもの退所時には、窓口を知らせるとともに、いつでも相談できる旨を伝えている。家庭支援相談員が退所者の状況を把握し、電話による相談やアドバイスを行い、記録に残している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	
【コメント】		
職員は一人ひとりの子どもとしっかり向き合い理解に努め、子どもの表出する感情や言動を受け止めるとともに、職員会議等で共有し、共通認識を持って支援している。子どもからの訴えは担当の職員や、気の合う職員が話を聞くようにしている。		

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

職員は一人ひとりの子どもとしっかり向き合い、子どもとの信頼関係づくりに心がけ、信頼関係の基で日常生活を通して子どもの基本的欲求が充足されるよう支援している。誕生日には担当職員と一緒に外出し、買い物や食事を楽しむ等、日頃からそれぞれの子どもの基本的欲求を受け止め、信頼関係を築いている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

小学低学年からグループ毎に「献立を決める、食材を買いに行く、調理、食事、後片付けをする」といった体験や高校2年生以上は親子訓練室を利用して一人で生活する体験をするなど、子どもの力を信じて寄り添いながら、自らの判断や行動する場面作りを大切にしている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

幼児から高校生までの異年齢で生活しており、それぞれの発達に応じた遊具、年齢に応じた学習の場を提供している。地域行事を把握し、出来るだけ行事に参加している。学生ボランティアによる学習の場を設けているが、障がい等のある子どもが増えていることもあり、ボランティアを十分に活用するまでには至っていない。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気ですべての生活が営まれている。	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	

【コメント】

職員は身近にいる大人として見本となるようにふるまうとともに、社会常識、社会規範等の生活技術が習得できるよう支援している。子ども会を通じて施設内のルールを話し合い、中・高校正は個別面談などを行っている。生活面、行事、退園した先輩の様子などを掲示物で知らせている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれている。	
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	

【コメント】

「楽しく食べる」ことを大切にしており、3食温かいごはんを楽しく食べられるように支援するとともに、注意事項は出来るだけ食後に伝えるよう配慮している。食事の際はみんなで挨拶して食べ始め、食べ終わりは幼児を除いて自由としており、食べ終えた食器は各自で片付けている。食器をすべて陶器にすることは難しいが、ご飯茶碗だけは陶器にして、落としたり割れるということを教えている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	

【コメント】

毎月セレクトメニューやおせち料理や七草粥等の季節感のある行事食を提供している。年1回嗜好調査を実施するとともに、把握したものをメニューに反映している。好き嫌いはあっても出来るだけなくせるように工夫して食事を提供している。現在アレルギーの子どもはいないが、現れた場合には医師等との連携を取り配慮していく。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ の 摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	

【コメント】

食事の重要性、食事の喜びや楽しさを知ることが目標に年間の食育活動計画を作成している。給食会議には職員も参加し、食事についての意見やコメントをしている。年齢に合わせた食生活と、自立してからも食習慣を保つ事ができるよう調理実習等を通じて支援している。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

衣服の購入はできるだけ個人の好みを尊重できるよう、本人と一緒に買い物にでかけたり、自宅に帰ったときに新しいものを買って来ている。低学年の子どもは職員が洗濯物をたたみながら、小さくなったものや汚れが目立つものを処分している。中・高校生は、洗濯から洗濯物たたみまで各自で行っている。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

清掃の時間には子どもの清掃場所を決め、職員と一緒に清掃を行っている。夕方に自分の部屋で過ごす時間を設け、子ども達は部屋の清掃や翌日の準備、「誰にも干渉されない自由の時間」として過ごしている。部屋の乱雑な子どもは、部屋の片付いた状態の写真を撮り、その写真を部屋に貼るなどで、部屋の整理整頓を促している。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	

【コメント】

個室が確保され子どもは安心、安全を感じる居場所が確保されている。幼児室は日当たりも良く目の届きやすい居室となっている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	

【コメント】

子どもの年齢や発達段階に応じて日常生活習慣が身に付くよう、また、自らが健康に関する自己管理や衛生管理を行えるよう支援している。交通安全についても通園、通学、外出の機会を使って、ヒヤリハット事例、年齢、発達段階に合わせた指導をしている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理が必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

嘱託医が予防注射や定期健診、健康診断を依頼するとともに、具合が悪い場合はかかりつけ医の受診を支援している。薬は、鍵の掛かる医務室で看護師が管理し、事故の起こらないようにしている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

学校での性教育の他、年齢に応じた個別の対応、必要に応じて話しやすい同性の職員が相談を受ける等の対応を行っている。職員は子ども達が性に対する正しい知識と他者を尊重できる気持ちを持てるよう、保健所から外部講師を招いての講習やCAPプログラムによる聞き取り等を学ぶとともに、実践している。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	

【コメント】

子ども達は、小遣いの範囲内でシャンプー等の好みの日用品購入を認めている。他児との区別に名前を書くが見えない等の配慮している。

②	A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	

【コメント】

行事を中心に子どもの写真を撮り、一人ひとりの成長記録として担当者が保管し、子どもが見たい時に見られるようにするとともに、子どもが退所する時には成長記録として渡している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	

【コメント】

職員は施設で子どもが大切にされている実感を持てるよう観察するとともに、子どもの目線で話を聴いている。子どもの問題行動への対応は、施設全体で取り組んでいる。日常の会話で乱暴な言葉使いが多いので、その都度注意、指導している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	

【コメント】

施設の構造上の死角を意識するとともに、子どもの動向や喧嘩は危険のない範囲で見守るなどにより、子ども間の暴力等を未然に防ぐ支援をしている。職員は日頃から子どもの気になる行動を見たり、耳にした時はその場で解決していくようにしている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。	

【コメント】

保護者の強引な引取りを想定して、学校の登下校に職員が同行するなど、安全に配慮している。児童相談所や警察とも連携を取りながら、保護者からの強引な引取りに職員が対応できるようにしている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行って いる。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で 有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。	

【コメント】

施設で心理室を設置するとともに、常勤の心理士を配置して週2回心理ケアの時間を設けている。心理士の職員は指導員としても子どもの支援を行っているので、子どもの実態や支援計画を把握した上で心理ケアを行っている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行って いる。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等 への通学を支援している。	

【コメント】

学習室を設置し、週2回大学生の有償ボランティアによる学習支援の時間を確保するとともに、基礎学力の向上に向けた支援をしている。特別支援学級や特別支援学校に通う子どもが増えてきており、学習面の支援についても個別に対応した、より細やかで丁寧な支援が課題となってきている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	

【コメント】

進路の選択には本人ばかりでなく、職員からも児童相談所や学校と連携を取りながら、本人が希望することを最大限尊重できるよう支援している。高校の進学や運転免許の取得等、本人の意思を尊重するとともに、就職活動等で自立につながる支援している。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】

高校生1年の夏以降は社会の仕組みを知る機会としてアルバイトを認め、アルバイト代は携帯電話料金以外を将来の自立のために貯蓄している。運転免許を取得できる年齢になった希望者には、就職に役立たせるため、補助金等を活用して運転免許の取得に取り組んでいる。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	<p>A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

子どもの家族とは、家庭支援専門相談員を中心に施設の行事や学校行事を通じて信頼関係を構築し、必要な場合は家族からの相談に応じている。一時帰宅や外泊時には保護者への丁寧な留意事項の説明に努め、適切かつ有効な機会となるよう努めている。保護者には必要に応じて施設や学校の行事等への参加を促すとともに、関係構築に向けて家族室を活用している。

(12) 親子関係の再構築支援

①	<p>A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

家庭支援相談員が児童相談所の担当者との家庭訪問、家族の面会や一時帰宅、外泊時には保護者に丁寧な留意事項の説明を行う等、適切かつ有効な機会となるよう取り組んでいる。

(13) スーパービジョン体制

①	<p>A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>国が定める基幹的職員を設置している。</p>	b
---	---	---

【コメント】

新採職員には個別にサポート職員を配置し、OJTを実施している。施設長、主任、副主任を中心に職員のスーパーバイザーとしての機能を持ち、職員がひとりで問題を抱え込まないように、必要に応じてスーパーバイズしているが、体系的にスーパービジョンの体制を確立するまでには至っていない。